たのしいサイエンス通信

2019.06.27

9

日本の細菌学の父、北里柴三郎医学博士

４月９日、麻生財務大臣が新紙幣の発行を発表しました。新千円札の肖像画に北里柴三郎医学博士が選ばれました。授業中に「野口英世と業績は同じくらいある。お札の肖像画になってもおかしくない人物だ」と話したことがあります。

今回は北里柴三郎医学博士について紹介したいと思います。

北里柴三郎

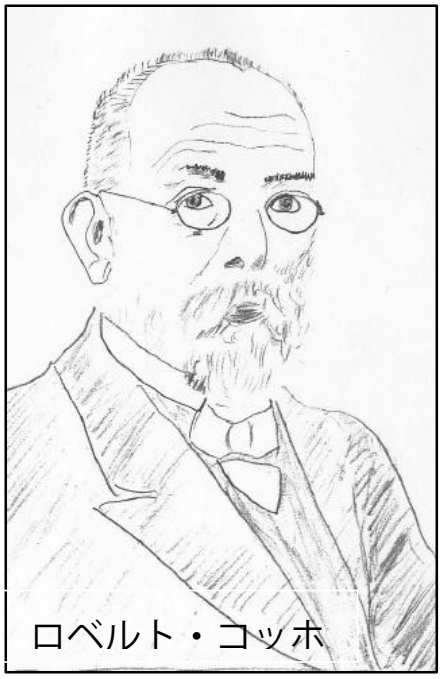
略歴

1853 年（嘉永 5 年）熊本県で出生。

1874 年（明治７年）東京医学校に入学し、在学中「医者の使命は病気を予防すること」と確信し、予防医学の道を志す。

1883 年（明治 16 年）にその志を果たすため内務省衛生局に入局。

1886 年（明治 19 年）から 6 年間、ドイツ留学。近代細菌学の開祖といわれるロベルト・コッホに師事。留学中に破傷風菌の純粋培養に成功、それを応用して血清療法を確立し、一躍世界的研究者となる。



ロベルト・コッホ

※ロベルト・コッホ（1843－1910）
炭疽菌・結核菌・コレラ菌の発見者。寒天培地やペトリ皿（シャーレ）は彼の研究室で発明され、その後今日に至るまで使い続けられている。

1892 年（明治 25 年）私立伝染病研究所（後に寄付され国立となる）を設立。結核専門病院を設立するなど結核予防に尽力。
1894 年（明治 27 年）香港で蔓延したペストの調査に赴きペスト菌を発見する。
1914 年（大正 3 年）北里研究所を設立（同所の 50 周年事業として北里大学開設）。細菌学・免疫学の講習会を実施するなど教育活動や衛生行政等の分野に貢献。
1917 年（大正 6 年）慶応大学医学科を創設。日本医師会などの各種医学団体および病院の設立など社会活動に従事。貴族院議員となる。
1931 年（昭和 6 年）脳溢血により 78 年の生涯を閉じる。
従二位、勲一等旭日大綬章

　どうでしょうか。細菌学者としての業績だけでなく、社会に対する貢献も素晴らしいものがあります。社会に貢献しようという一途な面からも読み取れるように、とてもまっすぐな性格の方だったようです。ドイツ留学中に母校である東大教授の脚気に関する業績を批判し、「恩知らず」として東大と対立し帰国後、日本での活躍が限られたそうです。そこを助けたのが福沢諭吉で、私立伝染病研究所の設立に結びつきました。このような福沢の恩への報いが、諭吉の死後の慶応大学医学部設立に結びついています。
　社会貢献への一途な思い、間違ったことを許せないまっすぐな性格、援助をいただける人格であると同時にその恩に報いることができる人格も備えていた点、人間としても学ぶべきことが多い人物のように思えます。　（きみの）

【参考文献】
学校法人北里研究所のホームページ（2019.6.22 現在）
ウィキペディア　北里柴三郎、ロベルト・コッホ（2019.6.22 現在）